



図5 干潮時の外川(銚子市)左に畳岩

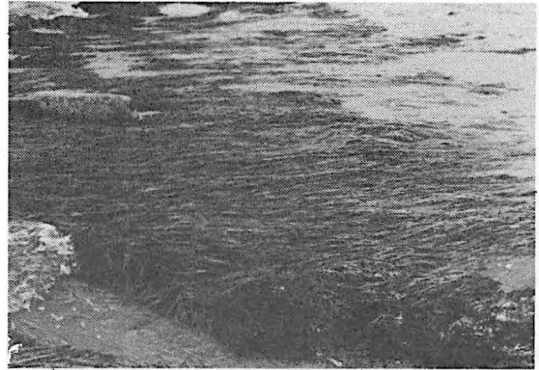


図6 外川畳岩西下のスガモ

垂直分布についてみると、漸深帯の低潮線下50cmあたりまで分布していた。銚子半島におけるスガモとエビアマモの垂直分布をみるとエビアマモは潮間帯下部に分布し、これよりもスガモは下層位に分布している。

最もよく生長している個体の長さは170cmあり、現存量は6450g/m²であった。これらの個体の長さや現存量を茨城県の伊師浜、小貝浜、大洗で測定した結果と比較すると銚子半島の現存量は最大にあたるものであった。スガモの南限地でも十分に生長しているといえる。

参考文献

MIKI, S. (1933-34) On the Sea-Grasses in Japan I, II, III Bot. Mag. Tokyo, 47: 842-862; 48:131-142, 171-178.
中庭正人(1975) 茨城県沿岸の海産顕花植物の分布

フロラ茨城 68:1-3.

—— (1977) 「生物II」生態分野への教材化のための茨城県沿岸の海草(顕花植物)の研究 茨城県教育研究紀要5:89-93.

—— (1981) 茨城県沿岸の海産植物 「茨城の生物(第2集)」(茨城県高等学校教育研究会生物部):52-68.

野沢治治(1974) 海の水草 遺伝 28:43-44

—— (1981) 我が国における海草の分布 植物と自然 15(13):15-19.

小高利彦・沼田真(1979) 銚子海岸岩礁潮間帯における生物群集の帯状分布と遷移 千葉大臨海研報告 11:17-35

田中剛・野沢治治・野沢ユリ子(1962) 本邦産海産顕花植物の分布について 植物分類地理 20:180-183.

○鬼怒沼湿原の植物(栃木県林務観光部環境観光課、1983年3月、141頁+付表・付図)

栃木県の北西、群馬県境の海拔2000mに位置する鬼怒沼湿原(高層湿原)の植生調査報告書。湿原内および周辺に成立するさまざまな群落を記載し、尾瀬ヶ原、日光戦場ヶ原湿原との比較をとおしてその特色を明らかにしている。微地形やpHと植生との対応や遷移についても詳しく研究されており、湿原の生態学に興味をもつものには貴重な資料であろう。(角野康郎)

○「ため池の自然」No.1(1983年9月、10頁)

埋め立てにより姿を消し、あるいは水質汚濁のために自然の失われつつあるため池の現実に直面して、池の保護と都市環境づくりへの活用を考えてゆこうと「名古屋ため池の自然研究会」が結成された。生物や公害の関係

者が中心となって、目下、池の環境や生物の調査を進めておられる。この会報は「調査結果や調査活動を通して考えたことなどを報告し、1人でも多くの人が、池に関心を寄せることを期待して」発行されるものである。

連絡先:〒458名古屋市区緑区浦里2-168 浜島繁隆

○「香川植物の会報」に「水草を尋ねて」というコーナーが設けられている。「……全国に稀なため池の国、讃岐。ところが、その讃岐にあって、実のところ水生草本の研究は極めて遅々たるものである。」との認識をふまえ、同会会員からの水草情報が集められることになったわけである。オニバスの新産地や、ため池の調査記録などが載っている。ひとつひとつの記事は短かいものであっても、それが集まれば貴重な資料になる。会をあげての企画におおいに期待したい。